

社保シリーズ

既存の義歯を活用した 磁性アタッチメント

2

社保研究部

2021年9月に導入された「磁性アタッチメント」は準用点数から、2022年診療報酬改定で新設された。今回は既存の義歯を修理し、磁性アタッチメントを作製する症例を解説する。

症例解説

鉤歯の $\overline{3}$ の冠が破折し、鉤歯として使えない状態となった。既存の義歯は $\overline{6}$ がもともと残根状態であり、 $\overline{3}$ と合わせて2カ所に磁性アタッチメントとして作製する。

鉤の除去は、義歯を調整して引き続き使用する場合で、鉤歯破損などで不適合となった鉤については、除去料20点を算定できる(11/1)。

増歯時は、補診70点、印象採得は42点、咬合採得は増歯後の歯数である187点(11/1)を算定する。補診の算定にあたっては、病名、症状、治療内容、製作予定部位、欠損補綴物の名称、欠損補綴物に使用する材料、設計、治療期間など概要図や写真などを用いて効果的に患者に説明する。カルテには以下の要点を記載する。

補診算定にあたり必要なカルテ記載事項

製作を予定する部位
欠損補綴物の名称
欠損部の状態
欠損補綴物の設計など

義歯の調整または指導を行った場合に算定する、歯科リハビリテーション料1は、増歯後9歯となり困難な場合124点で算定する(11/1)。

困難な場合の要件
(下記のいずれかを満たす場合)

総義歯を調整または指導した場合
9歯以上の局部床義歯を調整または指導した場合

既存の義歯に磁石構造体(マグ)を装着する場合の義歯修理は、マグの点数に含まれ算定できないが、増歯修理の際に磁性アタッチメントを使用する場合、義歯修理とマグの点数がそれぞれ算定できる(11/1, 11/8)(図1)。

キーパー付き根面板(RCK)は、1歯につき根面板の使用材料・部位に応じた点数である $\overline{3}$ 1,149点、 $\overline{6}$ 1,357点、KP60点、印象採得は単純印象32点または連合印象64点、装着料45点、装着材料料17点を算定する。RCKの除去は、歯根長の3分の1以上のポストを有する場合は著しく困難なもの80点、それ以外の場合困難なもの48点を算定する。同一歯のキーパーと根面板を一連で除去した場合は主たるもので算定する。また、キーパーが脱離し装着する場合、キーパーの材料料233点、装着料45点と内面処理加算

有床義歯修理を前提とする鉤の除去は算定できる。

増歯のための義歯修理が算定できる。

キーパー付き根面板製作のための印象は別に算定できる。

増歯後の歯数は9歯以上のため、困難なもので算定する。

磁石構造体とキーパーを使用した場合は、製品に付属している使用材料の名称とロット番号等を記載した文書(シールなど)をカルテに添付するなどして保存・管理する。

2・45点、装着材料料17点となる(図2)。

キーパー付き根面板(1歯につき)

	前歯・小臼歯	大臼歯
金パラ	1,149点	1,357点
銀合金	612点	621点

2022年11月時点

マグは、1個につき1,037点で、 $\overline{6}$ $\overline{3}$ に装着するため1,037点×2の2,074点を算定する(11/8)。

磁性アタッチメントはクラスプの代わりとなる磁石構造体で有床義歯を支え、鉤歯の保存にも有効であるため、治療の選択肢の一つとしてはどうだろうか。

「磁性アタッチメントを支台装置とする有床義歯の診療に対する基本的な考え方」(2021年8月日本歯科医学会)を参考にする。



部位	傷病名	診療開始日
$\overline{3}$	前装CKハセツ, 歯冠ハセツ	令和4年11月1日
$\overline{6}$	根面板フテキ	令和4年11月1日
$\overline{7-4 4-7}$	義歯フテキ, $\overline{3}$ 鉤フテキ	令和4年11月1日
〔年齢〕70歳男性		
〔主訴〕下の被せものがかけた, 入れ歯がガタガタする		
〔所見〕 $\overline{3}$ 歯冠破折, 根尖病巣は見られない, $\overline{6}$ 根面板フテキ, $\overline{6}$ $\overline{3}$ 根管充填状態良好, $\overline{7-4 4-7}$ PDフテキ		

月日	部位	療法・処置	点数
11/1	$\overline{6}$ $\overline{3}$	初診 (264)	264
		X-Ray (D) (58×2)	116
		(所見) 根管充填状態良好、根尖病巣は見られない	/
		補診 (70)	70
		$\overline{7-4 3-7}$ 部の歯肉の状態良好、舌側部辺縁形態を考慮し、既存の義歯を増歯し、残根部も含め	/
		磁性アタッチメントを作製	/
	$\overline{3}$	鉤除去 (20)	20
	$\overline{7-4 3-7}$	修理・単imp (アルジネート) (42)	42
		BT (187)	187
		1日2度来院	/
		義歯修理 ($\overline{3}$ 増歯) (320)	320
		$\overline{3}$ 人工歯(硬質レジン歯) (29)	29
		除去 $\overline{6}$ 根面板, $\overline{3}$ メタルコア(1/3未満) (48×2)	96
	$\overline{6}$ $\overline{3}$	KP (60×2)	120
		連imp(寒天+アルジネート) (64×2)	128
	$\overline{7-4 3-7}$	歯リハ1(1) $\overline{5}$ $\overline{4}$ $\overline{4}$ $\overline{5}$ 部調整 (124×1)	124
11/8		再診 明細 (56+1)	57
	$\overline{6}$ $\overline{3}$	RCK(12%金パラ) ((1,357+1,149)+45×2)	2,596
		接着材料料I(レセ) (17×2)	34
		マグ(マグフィットM) (1,037×2)	2074
11/10		再診 明細 (56+1)	57
	$\overline{7-4 3-7}$	義歯調整 $\overline{3}$ クラスプゆるめる	/
11月分合計 6,334点			

図1 【ケースごとに応じて磁石構造体を使用する場合の算定点数(1個の場合)】

ケース	義歯新製時	義歯修理時または増歯修理時	すでに装着されている義歯への装着時
イメージ図	新製した義歯 	破損した義歯 	すでに装着されている義歯
算定点数	義歯新製に係る点数 + 「磁石構造体を用いる場合」1,037点	義歯修理または増歯修理に係る点数 + 「磁石構造体を用いる場合」1,037点	「磁石構造体を用いる場合」1,037点

図2 【再度キーパーを装着する場合の算定点数】

ケース	キーパーの脱離再装着	キーパーを除去し、新たにキーパーを装着する場合
イメージ図	脱離したキーパー 	新たなキーパー
算定点数	装着料45点 内面処理加算2・45点 接着性レジンセメント材料料17点	除去料48点 装着料45点 内面処理加算2・45点 接着性レジンセメント材料料17点 キーパーの材料料233点

〔2022年改定の要点と解説〕より